

科目名	美術		英文表記	FineArt		平成28年3月21日	
科目コード	1013						
教員名: 田仲康嗣 技術職員名:						作成	
対象学科/専攻コース			学年	必・選	履修・学修	単位数	授業形態
全学科			1年	選	履修	2単位	実技
科目目標 【MCC目標】	<p>課題制作を通して、独創的な発想力や想像力、造形力の基礎的な力を身に付ける。 【VIII-A】相手の意見を聞き、自分の意見を伝える事で、円滑なコミュニケーションを図る事が出来る。 【VIII-D】現状と目標を把握し、その解離の中に課題を見つけ、課題の因果関係や優先度を理解し、そこから主要な原因を見つけ出そうと努力し、解決行動の提案をする 【IX-A】身内の中で、周囲の状況を改善すべく自分の能力を発揮できる。</p>						
総合評価	授業出席、授業に対する取り組み40%、課題提出に20%、課題ごとの作品評価に40%の割合で評価する。実技主体なので定期試験は行なわない。積極的な実習参加を重要視する						
科目達成度目標とJABEE目標との対応	目標割合	科目達成度目標(対応するJABEE教育目標)	達成度目標の評価方法	ルーブリック			
				理想的な到達レベル(優)	標準的な到達レベル(良)	最低限必要な到達レベル(可)	セルフチェック
	50%	① ドローイング:様々な身近な画材を用いて素早くイメージを描き、作品化する	授業終了時に作品提出。講評時に評価。	課題を理解した上で、さらに独創性や魅力のある造形表現が出来る。	課題を理解した的確な造形表現が出来る。	課題に対し積極的に取り組む。	
	30%	② コラージュ:印刷物やいろいろな素材を画面に切ったり貼ったりして新たなイメージを創り出す	授業終了時に作品提出。講評時に評価。	課題を理解した上で、さらに独創性や魅力のある造形表現が出来る。	課題を理解した的確な造形表現が出来る。	課題に対し積極的に取り組む。	
20%	③ 素材工作:提示された課題のイメージを段ボール素材を使い、小立体作品で作ることで基礎的な工作力と表現力を身に付ける	授業終了時に作品提出。講評時に評価。	課題を理解した上で、さらに独創性や魅力のある造形表現が出来る。	課題を理解した的確な造形表現が出来る。	課題に対し積極的に取り組む。		
本科・専攻科教育目標	1	2	3	4			
		◎		○			
評価方法と評価項目および関連目標に対する評価割合							
評価項目	目標との関連	定期試験	小テスト	レポート	その他(演習課題・発表・実技・成果物)	総合評価	セルフチェック
基礎的理解	①②③	0	0	0	100	100	
応用力(実践・専門・融合)	①②③				40	40	
社会性(プレゼン・コミュニケーション・PBL)	①②③				10	10	
主体的・継続的学修意欲	①②③				20	20	
					30	30	
授業概要、方針、履修上の注意	<p>身近な画材を用いての観察を主体としたスケッチや、言葉から発想・連想するイメージ・ドローイングや印刷物をコラージュして新しいイメージを創り出すこと、工作素材を使つての小立体の制作等をおこなう。また、課題ごとに講評を行う。</p> <p>身近な造形素材や画材を用いて、授業毎に出される課題について造形制作することにより、発想を柔軟にし、独創的な表現方法や発想力、創造力をつける。課題に対し積極的な参加を望む。授業終了時の制作した場所の掃除と道具の片づけは、必須(授業終了10分前に作業は終了すること)。パソコン、スマートフォン等は、基本的に使用しない。授業内で目的外での使用(ゲーム等)を見つけた場合は、減点の対象とする。</p>						
教科書・教材	適宜用いる。						

授 業 計 画					
週	授 業 項 目	時間	授 業 内 容	自学自習 (予習・復習)内容	セルフ チェック
1		2			
2		2			
3		2			
4		2			
5		2			
6		2			
7		2			
8	前期中間試験(行事予定で週変更可)	2			
9		2			
10		2			
11		2			
12		2			
13		2			
14		2			
15		2			
期末	期末試験	[2]			
16	授業ガイダンスおよびドローイング課題	2	授業の進め方の説明。課題:身近なものを描く		
17	スケッチ・ドローイング	2	いろいろなテーマを授業日毎に設定し、様々な画材を用いて 実在するものやイメージを描く。		
18	スケッチ・ドローイング	2	いろいろなテーマを授業日毎に設定し、様々な画材を用いて 実在するものやイメージを描く。		
19	スケッチ・ドローイング	2	いろいろなテーマを授業日毎に設定し、様々な画材を用いて 実在するものやイメージを描く。		
20	スケッチ・ドローイング	2	いろいろなテーマを授業日毎に設定し、様々な画材を用いて 実在するものやイメージを描く。		
21	スケッチ・ドローイング	2	いろいろなテーマを授業日毎に設定し、様々な画材を用いて 実在するものやイメージを描く。		
22	コラージュ	2	印刷物を切り抜き新しいイメージを創る		
23	コラージュ	2	印刷物を切り抜き新しいイメージを創る		
24	コラージュ	2	印刷物を切り抜き新しいイメージを創る		
25	コラージュ・ミクストメディア	2	前回まで作った作品をもとに新たにイメージを作る		
26	コラージュ・ミクストメディア	2	前回まで作った作品をもとに新たにイメージを作る		
27	小立体制作	2	アイデアスケッチ作成		
28	小立体制作	2	小立体制作		
29	小立体制作	2	小立体制作		
30	小立体制作	2	小立体制作		
期末	期末試験	[2]	なし		
学習時間合計		60	実時間	45	
自学自習(予習・復習)内容(学修単位における自学自習時間の保証)				標準的所用時間	
①				各2時間×30回	
②				各5時間×2回	
③					
備考欄					
<p>(JABEE関連共通記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> この科目はJABEE非対応科目である。その他必要事項は各コースで定める。 <p>(各科目個別記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> この科目の主たる関連科目は… <p>(モデルコアカリキュラム)</p> <ul style="list-style-type: none"> 対応するモデルコアカリキュラム(MCC)の学習到達目標、学習内容およびその到達目標を【】内の記号・番号で示す。 <p>(航空技術者プログラム)</p> <ul style="list-style-type: none"> 【航】は航空技術者プログラムの対応項目であることを意味する。 <p>(学位審査基準の要件による分類・適用)</p>					

学習時間は、実時間ではなく単位時間で記入する。(45分=1、90分=2)

前期科目は前期部分のみ記述、後期部分は後期のみ記述し、実施期間が見た目す
ぐにわかるようにする。(開講しない時期は空欄)